

平成 26 年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	市バス・地下鉄中期経営方針の推進(市バス事業)		
予 算 額	一千円	新規・継続の別	継 続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	—
担 当 課	企画総務部総務課(863-5031), 財務課(863-5080)		

[事業実施に至る経過・背景など]

利便性向上によるお客様の増加やコスト削減に取り組んできたことにより、「京都市自動車運送事業経営健全化計画」（平成22年3月策定）を上回るペースで収支は改善し、平成24年度決算において、計画では、平成27年度としていた経営健全化団体からの脱却を3年前倒しで達成した。

平成26年度は、35年ぶりの大幅増車と走行キロの拡大により、路線・ダイヤの拡充を図る「新運転計画」の実施をはじめ、「市バス・地下鉄中期経営方針（平成24年11月策定）」に掲げる取組を着実に実行し、累積資金不足の解消による自立した経営に向けて、增收増客によって経営の健全化を推進する、積極的な「攻めの経営」へ更なるチャレンジを行う。

[平成26年度における主な取組]

1 お客様増加策

- (1) 便利で分かりやすい市バス路線・ダイヤの編成と発信（26年3月実施）

 - ア 主要系統の増便、直行系統の新設、等間隔運行の拡大など、輸送力の増強
 - イ 地下鉄をはじめとする鉄道との結節強化
 - ウ 「深夜バス」の試行運行、最終バスの時刻繰下げなど、夜間ダイヤの増強
 - エ 地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充
 - オ 車両等の案内表示のデザイン一新など、利便性と分かりやすさ向上への取組
 - カ 京都駅前バスターミナルの旅客案内機能の充実（総合案内板の設置等）

(2) バス待ち環境の向上

 - ア KYOTO WiFi を活用した新たな手法によるバス接近表示器の整備（60基）
今後3箇年で200箇所整備し、設置可能なバス停約500箇所への整備を完了
 - イ 地域、民間の協力による新たなバス待ち空間「バスの駅」の設置

2 お客様接遇向上・安全対策

- (1) 接遇向上・安全運行に向けた、キャリア別の運転士研修の導入と実施回数の増加
 - (2) 新たに全運転士に対する事故防止重点研修を実施
 - (3) 事故防止重点強化策（違法駐停車への啓発による走行環境の改善）

3 お客様サービスの向上

- (1) 市バスＩＣカードシステムの導入と普及促進
(2) 嵐山・嵯峨地域における均一運賃区間の拡大（26年3月実施）

4 コスト削減

- (1) 総人件費の抑制
 - (2) バス車両の状態を徹底的に点検精査し、更新車両数を抑制
 - (3) 経常経費を20年度予算比5.9%削減（目標の5%削減を継続）

平成26年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	市バス・地下鉄中期経営方針の推進(地下鉄事業)		
予 算 額	一千円	新規・継続の別	継 続
担当課	企画総務部総務課(863-5031), 財務課(863-5080)		

[事業実施に至る経過・背景など]

「京都市高速鉄道事業経営健全化計画」（平成22年3月策定）の進ちょく状況を踏まえ、平成24年11月に「市バス・地下鉄中期経営方針」を策定し、全庁を挙げた増客策やコスト削減策に取り組んでおり、これまで計画を上回るペースで収支改善が進んでいる。

平成26年度は、安全対策やお客様サービスの向上、增收増客策、コスト削減など、同方針に掲げる取組を確実に実行するとともに、一般会計からの支援についても計画の進ちょくを踏まえつつ確保し、将来にわたる地下鉄事業の安定的な運営に向けて、経営健全化を着実に推進していく。

[平成26年度における主な取組]

1 お客様増加策

- (1) 「京都市地下鉄5万人増客推進本部」の体制の下、沿線施設との連携、イベントの開催等による全庁を挙げた取組の更なる推進
- (2) 沿線地域への地下鉄便利情報のポスティングや、区役所・支所等との連携による駅を拠点とした増客の取組
- (3) 地下鉄応援キャラクターを活用したPR活動など

2 駅ナカビジネスの積極的展開

- (1) 新たな商業スペース「コトチカ山科」、丸太町駅の店舗設置工事
- (2) 「コトチカ御池」の拡充、今出川駅の店舗展開に向けた実施設計

3 お客様サービスの向上

- (1) 利用者に分かりやすい案内サインの整備(駅地上出入口サインの刷新に着手等)
- (2) 北大路駅、今出川駅トイレのリニューアル(26~27年度)
- (3) 全ての駅トイレのオーバーホールの実施
- (4) 駅にインターネット無料接続拠点(WiFiスポット)を設置(26年度整備完了)

4 安全対策

- (1) 烏丸線への可動式ホーム柵設置(26年度 烏丸御池駅供用開始)
- (2) 今出川駅ホームへの車掌用モニタ設置
- (3) 駅改札口への防犯カメラの増設(26~27年度)

5 コスト削減

- (1) 総人件費の抑制
- (2) 経常経費を20年度予算比13.3%削減(目標の13%削減を継続)

6 一般会計からの支援

- (1) 地下鉄駅賑わい創出事業への出資金、経営健全化対策出資金の確保
- (2) 高資本費対策補助金(任意補助)の計上見送り

平成26年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	快適なバス待ち環境創出事業					
予 算 額	86,661 千円 〔うち一般会計補助金 18,600 千円〕	新規・継続の別	新規・継続			
担 当 課	自動車部 技術課 (863-5154)					
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>市バスのバス停に上屋やベンチ、バス接近表示器を整備する、バス待ち環境向上に向けた御要望が、多くのお客様から寄せられている。</p> <p>とりわけバス接近表示器は、お客様にバスの運行状況をお知らせすることで、バスを待つ間のイライラ感の緩和に大きく寄与するものとして、大変、御好評をいただいている。</p> <p>バス接近表示器整備の取組を加速させることによって、更に快適なバス待ち環境を創出し、市バスの利用促進につなげていく。</p>						
<p>[事業概要]</p> <p>1 KYOTO_WiFi を活用した新たな手法によるバス接近表示器の整備 (52,800千円) ～今後3箇年ですべての設置可能なバス停に整備～</p> <p>バス接近表示器については、製作期間や財政上の理由から、これまで年間5基から10基のペースで整備を進めてきたが、バス停において整備を進めてきた <u>KYOTO_WiFi のインターネット環境を活用して液晶モニターにバスの接近情報を表示する「モニター型」</u> を新たに導入することにより、大幅な工期の短縮と経費の削減が可能となる。</p> <p>平成26年度からの3箇年で、接近表示器の設置要件を満たす約500箇所のうち、未整備の約200箇所全てに整備する。</p> <p>(整備予定数)</p> <p>平成26年度：60基<従来型5基、モニター型55基></p> <p>平成27年度：70基<従来型7基、モニター型63基></p> <p>平成28年度：70基<従来型8基、モニター型62基></p> <p>2 「バスの駅」設置 (33,861千円)</p> <p>地域・民間の皆様の御協力によりバス停に近接する土地等を無償で提供していただき、バス待ちスペースを整備する「バスの駅」設置事業は、歩道が狭いことによりバス停施設の設置が困難な箇所において極めて効果的なバス待ち環境向上策であり、平成25年度から取り組んでいる。</p> <p>屋根、ベンチの他、バス接近表示器を基本設備とする「バスの駅」を平成26年度も5箇所程度に設置し、上記1の事業と併せてバス接近表示器の整備を推進していく。</p>						
[参考 (他都市の状況・事業効果など)]						

平成26年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	市バスICカードシステムの導入と普及促進					
予 算 額	1,128,038 千円 〔うち一般会計補助金 37,544 千円〕	新規・継続の別	継続			
担 当 課	営業推進室 (863-5061)					
[事業実施に至る経過・背景など] 交通系ICカードは1枚で電車やバスに乗車できる利便性の高いカードであり、本市地下鉄においては、平成19年4月からICカードシステムを導入している。更に、平成25年3月には、1枚のICカードで全国の鉄道やバスを利用できる「全国相互利用サービス」に対応し、観光客をはじめとするお客様から非常に好評をいただいている。 今般、本市市バスにおいても、ICカードシステムを導入することで、お客様の利便性の向上を図る。						
[事業概要] 市バスのICカードについては、平成26年度中のサービス開始に向けて平成25年度から事業に着手しており、平成26年度は、本市が所有する全車両（788両）のバス車載器にICカードが読み取れる機器を設置するとともに、バス営業所にICカード情報を集約する機器を設置し、サービスを開始する。 <u>サービス開始に当たっては、PiTaPaカードによる、市バス・地下鉄の利用額を合算し割引を行うお得なサービスを提供するとともに、お客様への幅広いPR活動を展開し、ICカードの利用者増を図る。</u> 1 年次計画 平成25～26年度 システム構築等 平成26年度中 バス車載器及びバス営業所への機器設置 市バス ICカードシステムのサービス開始 2 総事業費 15億円						
[参考（他都市の状況・事業効果など）]						

平成26年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	駅ナカビジネスの積極的展開		
予 算 額	228,000 千円 うち一般会計出資金 138,000 千円	新規・継続の別	新規・継続 政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別 政策的新規充実予算枠・ 局配分枠
担 当 課	営業推進室 (863-5068)		

[事業実施に至る経過・背景など]

「駅ナカビジネス」の展開は、駅の魅力と利便性が高まり、地下鉄の経営健全化に寄与するだけにとどまらず、増客及び駅や地域の賑わいを創出することから、これまで積極的に取り組んでおり、平成24年度には、駅ナカ収入5億円の目標を一年前倒しで達成した。

平成24年度に策定した「中期経営方針」で掲げている「第2期駅ナカビジネス展開計画」では、「コトチカ」の山科駅と北大路駅への新たな整備とともに、丸太町駅への店舗整備など、それぞれの駅の特性に応じた商業利用を促進することにより、平成30年度の駅ナカビジネス収入10億円を目指すこととしている。

[事業概要]

平成26年度は、コトチカ山科及び丸太町駅店舗の整備工事や、コトチカ御池の拡充及び今出川駅店舗の実施設計を行うなど、「第2期駅ナカビジネス展開計画」の着実な推進を図る。

○コトチカ山科整備工事

(予算額：95,000千円)

- 1 所在地 山科区安朱南屋敷町
- 2 店舗面積 約100m²
- 3 店舗数 4店舗
- 4 開業予定 平成26年度

○丸太町駅構内店舗整備工事

(予算額：109,000千円)

- 1 所在地 中京区大倉町
- 2 店舗面積 約100m²
- 3 店舗数 1店舗
- 4 開業予定 平成26年度

○今出川駅構内店舗整備に向けた設計

(予算額：8,000千円)

- 1 所在地 上京区岡松町
- 2 店舗数, 面積 設計により確定
- 3 開業予定 平成27年度

○コトチカ御池増床に向けた設計

(予算額：16,000千円)

- 1 所在地 中京区虎屋町
- 2 店舗数, 面積 設計により確定
- 3 開業予定 平成27年度

[参考 (他都市の状況・事業効果など)]

平成26年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	地下鉄案内サインのリニューアル		
予 算 額	30, 809千円	新規・継続の別 政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	新規 —
担 当 課	高速鉄道部 運輸課(863-5223)		

[事業実施に至る経過・背景など]

地下鉄駅に掲示している案内サイン等については、長年の使用により劣化が進んでいることに加え、周辺施設の変化や駅設備の充実などにより、その都度掲示物を追加してきたことから、まとまりのない状況になっている。

そのため、よりお客様にとってわかりやすい表示となるよう、現在作成中の「地下鉄駅案内サインマニュアル（施設整備基準）」に基づき、順次整備してお客様サービスの向上に努める。

[事業概要]

1 駅構内案内サインを統一した表示に全面更新

案内サインの拡大や配色の変更等により、駅構内の案内サインを見やすく統一した表示に刷新する。

(平成26年度以降、4年間で全駅実施予定)

【変更対象の案内サイン（例）】

- 駅出入口から乗車口に至るまでの誘導サイン
- 行先や乗換えなどの案内サイン
- トイレ・エレベーターなどの施設等を示す表示サイン



(現況写真)

2 駅ホームのエレベーター等案内表示の増設

お客様が電車からホームへ降りたときに、エレベーター、エスカレーター及び階段の位置がすぐに分かるように、案内表示を増設する。（平成26年度に全駅実施）



(案内表示写真)

3 駅地上出入口の地下鉄案内サイン（電照式駅名標）の刷新

地下鉄各駅の出入口地上部に設置している駅名標を、誰でも地下鉄と分かれるようピクトグラム（絵文字等の視覚記号）を用いた表示に刷新する。（平成26、27年度の2箇年で全駅実施）



(現況写真)

[参考（他都市の状況・事業効果など）]

平成26年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	地下鉄烏丸線可動式ホーム柵整備事業					
予 算 額	123,000 千円 <small>(うち一般会計出資金 25,000 千円 うち一般会計補助金 36,000 千円)</small>	新規・継続の別 <small>政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別</small>	継続 <small>局配分枠</small>			
担 当 課	高速鉄道部 技術監理課 (863-5216)					
[事業実施に至る経過・背景など]						
交通局では、お客様に地下鉄をより安全に御利用いただくため、烏丸線において可動式ホーム柵の整備に取り組んでいる。導入に当たっては、経営の健全化に影響を及ぼさないよう、車両改造を伴わない方法を用いるとともに、国の補助制度を活用し、お客様の利用が多く混雑する京都駅、四条駅、烏丸御池駅の3駅で整備する。						
※1 日平均乗降客数 (平成24年度)						
<ul style="list-style-type: none">・京都駅 約 109 千人・四条駅 約 89 千人・烏丸御池駅 (烏丸線) 約 84 千人						
[事業概要]						
1 年次計画						
平成25年度内に柵本体の製作に着手し、 <u>平成26年度には、烏丸御池駅に可動式ホーム柵を設置する。</u>						
その後、運用面での課題を十分検証し、必要な対策を講じた後、平成27年度には、京都駅、四条駅に設置する予定である。						
2 総事業費						
約9.7億円 (平成25年度～平成27年度)						
[参考 (他都市の状況・事業効果など)]						

平成26年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	地下鉄駅トイレのオーバーホールの実施					
予 算 額	28,000千円	新規・継続の別 政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	新規 —			
担 当 課	高速鉄道部 技術監理課 (863-5216)					
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>烏丸線の北大路・京都間は開業から32年、東西線においても開業から16年が経過しており、お客様からトイレの汚れ及び悪臭についての御指摘をいただいていることから、北大路・京都間の旅客用トイレ改修を平成22年度以降順次進めている。</p> <p>平成26年度は、これに加え、この間リニューアルを行った駅以外のトイレについても、気持ちよく御利用いただくため、便器の取替や床の洗浄などのクリーン化を新たに実施する。</p>						
<p>[事業概要]</p> <p>これまでリニューアルを行ったトイレを含めた全駅の旅客用トイレについて、悪臭の原因調査を実施したうえで、便器の新品取替や便器及び床の洗浄・コーティング等のオーバーホールを実施する。</p>						
<p>[参考 (他都市の状況・事業効果など)]</p> <p>トイレのリニューアル実施駅</p> <p>平成22年度：四条駅（新設）</p> <p>平成23年度：烏丸御池駅</p> <p>平成24年度：四条駅、京都駅（新設）</p> <p>平成25年度：丸太町駅</p> <p>平成26年度：北大路駅、今出川駅において着手予定</p>						